



ESSAY 院長エッセイ

医療法人社団光風会 三光病院
院長 海野 順

依存症の背景には、「あいまいな喪失」があります。失ったと気づかれにくい関係や役割、信頼といった喪失が、静かに心の奥に横たわっています。昨年末のアディクションアカデミーでは、語りの中でそうした喪失に名前が与えられ、少しずつ意味づけられていく場面がありました。言葉になることで、抱え続けてきた重さが分かち合われる瞬間です。

元日例会に出席するたびに、新しい年の始まりに「回復」とは何かを改めて考えさせられます。回復は特別な誰かのためのものではなく、迷い、立ち止まり、そしてまた前を向こうとする、すべての人が日々歩んでいるプロセスなのだと思います。

本年も、こころの回復を地域とともに育む医療を、希望をもって丁寧に積み重ねていきたいと考えています。

広がる関連施設

光風会は、ネットワークの輪を広げ、総合的にケアができるよう発展し続けています。医療と福祉、病院と家庭と地域を結ぶ光風会ならではの宿泊型・通所型の自立訓練事業と就労継続支援B型訓練の多機能型事業、相談支援事業と地域活動支援センター事業、介護医療院などを展開しています。



竜雲メンタルクリニック

サテライトクリニック



コリーナ介護医療院



牟原寮

自立訓練事業
就労継続支援B型事業所
infiniアンフィニ



ピッコリーナ 児童発達支援・放課後等デイサービス



クリマ

地域活動支援センター



プレスマン 高齢者グループホーム

お問い合わせ



医療法人社団 光風会



最新のお知らせ
など詳しい内容
はHPで掲載して
います。

TEL 087-845-3301 FAX 087-845-6822

▶認知症疾患医療センター専用ダイヤル

TEL 087-816-2170

車でお越しの方

- 西から（愛媛方面）
高松自動車道 高松東インターより
42号線を東へ、38号線を北上
- 東から（徳島方面）
高松自動車道 さぬき三木インターより
38号線を北上 約7km

電車でお越しの方

- JR高徳線
「讃岐牟礼駅」下車 徒歩約10分
- ことでん志度線
「八栗新道駅」下車 徒歩約10分



アクセス

SEA LIGHT

医療法人社団光風会 三光病院 広報誌



[特集]

■回復の道を、ともに学び、ともに歩む。 第8回アディクションアカデミー

[OTHER CONTENTS]

▶ NEWS & TOPICS

海野院長著書【新国民病 “一人癒やし”としての依存症】刊行、rTMSの新たな治療機器Brainswayを導入

▶ REPORT

第40回中国四国アルコール関連問題学会 香川大会



特集

第8回アディクションアカデミー

2025.12.20~21



香川県中央部、高松市と坂出市にまたがる瀬戸内海国立公園・五色台に位置する「休暇村 讀岐五色台」にて、今年もアディクションアカデミーを1泊2日で開催しました。本アカデミーは、故・市川正浩名誉院長が、アルコール依存症のご家族を労う研修として提案されたもので、「NPO法人ソーバーねっと」との共催企画として、コロナ禍を乗り越えながら継続してきました。その結果、今回で第8回を迎えることができました。

これまで依存症治療拠点機関として「香川県依存症セミナー」を併催し、特別講演では芥川賞作家の西村賢太氏、元NHKアナウンサーの塚本堅一氏、文筆家・写真家の風間暁氏、俳優の高知東生氏、元TOKIOメンバーの山口達也氏など、多彩な分野で活躍されている方々にご登壇いただきました。そして今回は、薬物依存症からの回復経験を持つ田代まさしをお迎えし、依存症への理解と啓発をいっそう深める貴重なお話を伺うことができました。近年、パーソナルリカバリーの考え方があ



注目される中、田代氏が大切にされている「生きる道」は、参加者一人ひとりの心に強く響くものでした。

プログラムでは、依存症当事者・家族による体験発表をはじめ、依存症が多様化する現在の状況を踏まえ、各種依存症に関するレクチャーや啓発講義を実施しました。また、参加の思い出づくりとして創作活動ブースも設け、参加者それぞれが自由な感性で作品づくりを楽しんでいました。恒例の「夜話会」は深夜まで続き、地域ごとの取り組みや実践に関する情報交換、全国の仲間との交流が午前4時過ぎまで活発に行われました。

参加対象を「依存症に関心のあるすべての方」としている本アカデミーには、当事者・家族に加えて、全国各地から医師・看護師をはじめとする専門職を含む300名近くの方々が集いました。毎年多くの方が心待ちにしてくださる背景には、支援する側と支援を受ける側という立場の垣根が、自然と失われる瞬間がこの場にあるからだと感じています。



アディクションアカデミーは、1年の締めくくりとして今後も継続し、回復の一舞台として、また依存症支援の学びと交流の場として、さらに発展させていく予定です。

REPORT

三光病院では定期的な出張や社会貢献活動に力を入れ、職員のスキルアップに努めています。

NEWS & TOPICS

第40回中国四国アルコール関連問題学会 香川大会 「Together to make shapes ~そして、形作るアディクション支援~」 開催のご報告

2025年11月29日(土)、30日(日)の2日間、かがわ国際会議場およびサンポートホール高松にて「第40回中国四国アルコール関連問題学会 香川大会」を開催いたしました。本大会は、アルコール依存症をはじめとする多様なアディクション領域の専門家が一堂に会し、大会テーマ「Together to make shapes ~そして、形作るアディクション支援~」のもと、現場の実践と今後の支援のあり方を共有し、共に考える機会となりました。支援者のみなならず当事者の方々にも多数ご登壇いただき、双方の視点から支援の困難さや支援を受ける側の心情について深く学ぶことができたことは、本大会の大きな特徴であり成果といえます。

パネルディスカッション「悲惨な事故 一被害・加害・未来に向けた語り」では、飲酒運転や危険ドラッグにより大切なご家族を亡くされた被害者遺族の方、そして事故を起こした経験を持つ依存症当事者の方にご登壇いただきました。遺族の方が抱える深い悲しみと、それを支え続けてきた周りの方とのつながり。また、事故を起こした当事者の方が抱え続ける後悔や苦悩、そして回復に向かう過程で得られた支援者との関わり。その語りは、依存症の正しい理解が社会に十分浸透していない現状や、必要な医療に結びつくまでの難しさを私たちに強く問いかけるものでした。

本大会は、私たちが約1年前から準備を重ねてきたこともあり、特別な思い入れのある学会となりました。多くの専門職、当事者、ご家族、関係機関の皆さんにご参加いただき、会場の至るところで活発な学びや交流が生まれたことを心より嬉しく思います。支援者と当事者の垣根を越えた対話や協働が、これからの支援の姿をともに形作る大きな一歩になったと実感しています。また、今大会に併せて開催された総会にて、海野院長が学会副理事長に選任されました。今後も地域医療およびアディクション支援の向上に寄与すべく、より一層尽力してまいります。



■ 海野院長著書

【新国民病 "一人癒やし"としての依存症】刊行

海野院長の著書「新国民病 "一人癒やし"としての依存症」が幻冬舎より刊行されました。本書は、依存症が現代社会で誰にでも起こり得る普遍的な問題であることを示し、その成り立ちや支援のあり方について、症例・エピソードを交えながら多角的に解説しています。



■ rTMSの新たな治療機器としてBrainswayを導入しました

本機器は、脳深部まで刺激可能なDeepTMSを特徴とし、従来機とは異なる治療効果があります。中等症以上のうつ病に加え、海外では强迫性障害やPTSD、依存症への研究も進み、治療選択肢を広げる技術として注目されています。国内での導入は限られ、当院が6施設目です。